

# デバッグの基礎知識 —16カ条—

馬具取 益三、 館 伸幸(解説)

今日もマイコン・タウンでは厄介な事件が起こっている。動かない、止まらない、値がおかしい…。果たして犯人は、あの処理なのかこの記述なのか、はたまたハードウェアなのか。こんなとき、解決できるのは、そう、彼だけだ。トラブル捜査歴30年、<sup>ばくとりますぞう</sup>馬具取 益三。人は彼をデバッグ刑事と呼ぶ。(筆者)

皆さんこんにちは。馬具取です。今回は皆さんに、これまで私が扱った事件についてお話ししましょう。設計同様、デバッグも基本が大切です。若い捜査官の諸君らには、ぜひこれらの事例を参考にしてほしいと思います。

## 1. 事件ファイル(その1) —— 両替屋ニセ申告事件

マイコン・タウンでは、町を挙げて温度計測の仕事に取り組んでいた。ところがどうも結果がおかしいという。測定した温度をデジタル値に替えるのは両替屋が行っており、ここで不正が行われているのではと騒ぎになっていた。

### 解決手法1 初動が肝心！

事件の報告を受けるときは、一体何が起きているのか、当事者によく確認しよう。「おかしい」とか「変」とかいうのは、何も情報を持っていない言葉だということには大抵気づく。しかし、「大きい」、「小さい」、「ちょっと」といった、比較用語にはだまされやすいので注意が必要だ。

事件に巻き込まれた当事者たちは動揺している。捜査をする者が冷静でいなければ解決は遠のく。この時点でミスを責めたり怒鳴ったりする当事者がいたら、まずその人を静かにさせよう。今は何より、現状把握こそが重要事項なのだ。

### 解決手法2 事件現場の周辺を把握しろ！

事件の発生した町では、いつ、誰が、何を、どう

やって処理していたのか正確に把握しよう。町の構造から仕事の手順まで、過不足のない把握が肝心だ。得られた情報は、絵にしてみるのがいい。なに、ウラ紙にラフ描きで十分だ。

### 解決手法3 類似事件も洗い！

一つの原因が複数の現象を引き起こすことはよくある。全く関係がないと思われた事件が、実は同一犯だったという事例は少なくない。まして、似た事件であれば、同一犯の可能性大だ。犯人へは現象からたどり着くしかない以上、たどれる道をなるべくたくさん見つけておくのが解決への近道だろう。

### — 解説 —

デバッグ刑事のアドバイスに従って聞き込みをしたところ、どうやら今回の事件は、次のような内容であることがわかりました。



図1 現状を把握せよ！5W1Hだ！